

**Citation:** Havanond C, Havanond P. Argon plasma coagulation therapy for acute non-variceal upper gastrointestinal bleeding. The Cochrane Database of Systematic Reviews 2005, Issue 2. Art. No.: CD003791.pub2. DOI: 10.1002/14651858.CD003791.pub2.  
**CRG名:** Upper Gastrointestinal and Pancreatic Diseases

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 04 February 2005

**Clib issue No.;** N/U: 2005 issue 4; -

**背景:** 非静脈瘤性上部消化管出血の初期止血には、内視鏡的治療が推奨されている。多くの内視鏡的止血装置が使用されている。アルゴンプラズマ凝固(APC)装置もそのひとつである。

**目的:** 利用可能な文献をすべてレビューし、急性非静脈瘤性上部消化管出血の管理におけるAPC療法の有効性を他の内視鏡的治療と比較評価する。

**検索戦略:** Cochrane Central Register of Controlled Trials(コクラン・ライブラリ、2003年第4号)、MEDLINE(1966～2003年12月)、EMBASE(1980～2003年12月)、Web of Science for SCISEARCH(1980～2003年12月)、BIOSIS(1985～2003年12月)およびNationa Reseach Register(2003年第4号)を検索した。さらにUnited European Gastroenterology Week and Digestive Disease Weekの会議議事録の抄録をハンドサーチした。

**選択基準:** 非静脈瘤性上部消化管出血の治療における、APCと他の内視鏡的止血介入法を比較したランダム化比較試験。

**データ収集と分析:** 2名のレビューアが試験の品質を評価し、独立してデータを抽出した。

**主な結果:** 121例を対象とした2件の試験を組み入れた。共通の介入法がなく、統合できなかった。1件の試験はAPCとheat probeを比較しており、もう1件はAPCと注射硬化療法を比較していた。いずれの試験でも、有意差はなかった。

**レビューアの結論:** 本レビューで同定した2件のランダム化比較試験に基づけば、APCが他の内視鏡的療法より優れていることを示唆するエビデンスはない。ランダム化比較試験がさらに必要である。

翻訳公開日: 06年6月23日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。また、この日本語訳はコクラン・ライブラリ2005年issue 4に掲載されたレビュー・アブストラクトの翻訳です。コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されていますので、ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。